



SLAC NATIONAL ACCELERATOR LABORATORY  
Operated for the U.S. Department of Energy by Stanford University

March 20, 2009

関係者各位

夏井拓也氏についての SLAC 訪問についてこのレターがかけることを喜ばしく思います。彼は 2009 年 1 月 12 日から 10 週間を私の指導のもとで過ごしました。この期間中、夏井氏はいくつかの重要な高電場加速器開発プログラムに実験的、理論的な両側面から活発に参加しました。また、彼は我々のすべての定期会議、セミナー、ディスカッションなどの学術的な活動に参加しました。夏井氏は、短い訪問期間に計画されたすべての研究活動を達成するために、優れた仕事をしました。

この訪問のはじめに彼は“Introduction of our laboratory and my research, development of portable 9.4 GHz X-band linac for nondestructive testing”という題名のすばらしい発表をしてくれました。次の日には、我々は多くの面白い結果に関する発展的な議論をしました。それは我々双方に有益となりました。

彼は、T18\_VG2.4\_DISK と呼ばれる加速管の高周波チューニングの最終調整と特性評価を我々で行いました。これは、SLAC-CERN-KEK の共同事業のなかの CLIC メインライナックの設計研究のためのものです。また、彼は最新の加速管や RF 機器のための製造や組み立て過程をよく知るために我々の製造現場の長時間の見学を行いました。

夏井氏は、他のグループメンバーと協力しているパルスヒーティング研究のために、空洞設計で素晴らしい仕事をしました。強力な計算技術で、夏井氏はいくつかの最適化された詳細なセンシティブティを考慮した空洞形状を設計しました。また、それはレポートにまとめられています。彼は一貫して懸命に働きました。彼は、計画した仕事を完成させるために夜や休日に来ることもためらいませんでした。

すべての上で、私は夏井氏が基礎物理学と電気工学で確実で幅広い知識で非常に有能であるとわかります。そのうえ彼は非常に勤勉で信頼できます。疑う余地なく、彼は科学研究環境の優れた一員であり、私は彼の大学院での研究と今後の経歴がすべてうまくいくことを祈っています。

Juwen Wang  
Deputy Department Head for ATRD